

令和 8 年度 通信教育実施計画

教科		科目	単位数	履修上の留意点	
理科		化学基礎（後期）	2	・既に同一科目を修得しているものは受講できない。	
指導目標	① 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解する。 ② 科学的に探求しようとするための基本的な事項を理解する。 ③ 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度を養う。				
教科書			副教材等		添削指導
数研出版『改訂版 新編 化学基礎』			NHK高校講座「化学基礎」 NHK for School		6回
メディア視聴減免実施の有無			☒	実施している	☐ 実施していない
メディア減免 視聴メディア及び視聴日程					メディア減免報告課題提出締切
NHK高校講座「化学基礎」 ※オプション参照					10/30（金）、11/30（月）、12/23（水）
レポート（学習報告書）					
回	学習内容				提出期限
1	物質の分類と状態変化（第1編 第1章 物質の構成 第2章 物質の構成粒子） ・純物質と混合物、単体と化合物の違いを理解し、物質の状態変化を粒子の動きと結びつけて捉える。				唐 10/21 佐・月 10/28
2	原子・イオンと結合のしくみ（第2章 物質の構成粒子 第3章 粒子の結合） ・原子やイオンの基本的な構造を理解し、周期表や結合の種類による物質の特徴を関連付けて考える。				唐 10/21 佐・月 10/28
3	物質と化学反応の計算（第2編 第1章 物質と化学反応式） ・原子量・物質質量（mol）・濃度の考え方を理解し、化学反応式をもとに量の関係を扱う。				唐 11/25 佐・月 12/2
4	酸・塩基の反応（第2章 酸と塩基の反応） ・酸・塩基の性質やpHを理解し、中和反応による水溶液の変化を捉える。				唐 12/16 佐・月 12/23
5	酸化還元反応の考え方（第3章 酸化還元反応 第1節酸化と還元 第2節酸化剤と還元剤） ・電子の移動に着目して酸化還元反応を理解し、酸化剤と還元剤のはたらきを区別する。				唐 1/6 佐・月 1/27
6	酸化還元反応の利用（第3章 第3節 金属の酸化還元反応 第4節 酸化還元反応の利用） ・金属の反応性やイオン化傾向を理解し、電池や金属の製錬が身近な現象と結びついていることを把握する。				唐 1/6 佐・月 1/27
スクーリング（面接指導）					
月	学習内容				実施日
10	物質と粒子の見方を深める 身近な物質の観察や簡単な操作を通して、物質の分類や粒子の考え方を具体的なイメージと結びつけて捉える。				唐津 10/4 佐賀 10/11 月曜 10/12
11	物質と計算の考え方 物質質量や濃度、化学反応式に関する計算を扱い、途中過程を確認しながら数量関係の捉え方を整理する。				唐津 11/8 佐賀 11/15 月曜 11/16

12	酸・塩基と水溶液の性質 酸性・中性・塩基性の水溶液を比較し、pHや中和の考え方を実際の変化と関連付けて理解を深める。	唐津 11/29 佐賀 12/6 月曜 12/7
1	酸化還元反応の捉え方 酸化還元反応を電子の移動に着目して整理し、金属の反応性や身近な現象とのつながりを捉える。	唐津 12/20 佐賀 1/10 月曜 1/11
勉強会	化学基礎の振り返り これまでに学習した化学基礎の内容について、要点の整理や問題演習を行い、自身の理解状況を確認しながら知識の定着を図る。	全課程 1/20(水) 1/21(木)
2	化学基礎の振り返り これまでに学習した化学基礎の内容について、要点の整理や問題演習を行い、自身の理解状況を確認しながら知識の定着を図る。	唐津 1/24 佐賀 1/31 月曜 2/1
試験		
前・後期	試験範囲	実施日
後期	レポート第1回～第6回	唐津 1/24 佐賀 1/31 月曜 2/1
学習の成果に係る評価及び単位の修得の認定に当たっての基準		
○レポートの全6回をすべて合格していること。 ○面接時数8時間を満たしていること（ただし、放送視聴による減免の場合は4時間）。 ○総合評価はレポート、スクーリング、テストを総合的に評価し、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の観点ごとに3段階（A,B,C）で行う。 ○総合評価が評定2以上であること。		

※オプション

放送視聴		
回	学習内容	提出期限
1	【1～16】化学が私たちの暮らしにどのように関わっているかを理解し、周期表や物質の性質を通して、物質を体系的に捉える。特に次の番組について放送視聴票を提出する。「1 私たちの暮らしと化学」，「9 元素の周期表」，「15 物質の性質を学ぶ①」，「16 物質の性質を学ぶ②」	10/28(水)
2	【17～32】物質の考え方や気体の体積との関係を学び、化学反応の量的関係や中和反応利用について理解を深める。特に次の番組について放送視聴票を提出する。「17 物質量」，「20 物質量と気体の体積」，「24 化学がたどってきた道」，「中和反応の利用」	11/25(水)
3	【33～40】酸化還元反応や金属のイオン化傾向を理解し、身近な現象や科学技術が社会や未来に果たす役割を考える。特に次の番組について放送視聴票を提出する。「34 酸化・還元と参加数」，「36 金属のイオン化傾向」，「38 身近な酸化還元反応」と「39 化学が拓く世界①」または「40 化学が拓く世界②」	12/23(水)